



押字考全
伊勢貞丈著

荻野資料
イ 4
3153
C 30



押字考

全

萩野藏

押字考



伊勢平藏貞丈著

和漢押字ノ事白石翁ノ同文通考ニ其説ヲ盡セリ今更ニ何ヲカ云ハシ然凡少思フ所ヲ左ニ記スノミ

●
押字由来 同文通考曰異朝ノ押字ハ天子ノ詔ノ畫諾ト云事ヨリ始レリトイフ也此説通雅ニ見エ凡諸侯ヨリ奉ル所ノ議奏ニ天子自ラ諾ノ字ヲ草書ニテシルニ賜ルヲ畫諾トハ云也吾朝ニモ古ヨリ天子詔勅ニ御畫ト云事アリシナレハ其由テ來ルヲハ久シキ事ニヤ貞丈曰御畫トハ太政官ヨリ詔書勅書等ヲ書テ御覽ニ備ヘ奉ル時天子筆ヲ取テ其書ノ年月ノ下ニ何日ト書加ヘ給フ也又其書ニ依テ可ノ字ヲ書又聞ノ字ヲ書給フトモアリ其法式ハ公式令禁祕抄等ニ見タリ又聖武天皇天平感宝元年閏五月廿日侍事ノ勅書ノ模寫ヲ見レハ年号ノ上ニ勅ノ字ヲ書給ヘリ是亦御畫也又橘諸兄藤原豊成大僧都法師行

信ノ連署アリ何レモ位署ハ他筆ニテ名ハ少ク大字ニテ自
筆ト見ユ又東大寺所藏ノ古文書ノ模寫ヲ見レハ貞觀年
中ノ文書ニハ押字無之シテ是モ位署ハ他筆ニテ史官ノ
名ハ自筆ト見ユ辨官ハ名ヲ書ズシテ姓ノ下ニ朝臣ノ二
字ヲ少シ大字ニ書ケリ是自筆ト見ユ是等自筆ヲ以テ證
トスル一畫諾御畫ト一意也是等ノ事轉變シテ終ニ押字
出來レルナルヘシ

聖武天皇勅書寫 文詞畧之

勅

天平感寶元年閏五月廿日

貞文云勅ノ字御畫也

奉

勅 正一位行左大臣兼大宰帥橘宿祢

諸兄

右大臣後二位藤原朝臣

豊成

大僧都法師 行信

貞文云右三人ノ名
自筆ト見タリ

貞觀十三年八月七日正位上行左史伴連貞宗

叅議右大辨從五位上藤原朝臣

貞文云此時代イマク押字アラズ只名ヲ自筆
ヲ以テ書加ルノミ也史官ハ名ヲ書キ辨官ハ
名ヲ書スシテ朝臣ノ二字ヲ書ク是押字ノ
所前也

同上

貞觀十三年閏八月廿日左史正位上宿禰斯乃文

叅議右大辨從四位上藤原朝臣

同上

貞觀十六年二月五日吾妻正位上清江宿禰貞直

從五位上左大辨兼東宮學士橘朝臣

● 漢土ノ押字ノ始詳ナラズ又欽同文通考曰東觀餘論ニ唐文
皇羣臣ノ上奏真字草書其用フル所ニマカセラルタハ其
名ヲハ草書ヲ用フル事ヲ得ス其後貞文云此其後ト云
辭何ノ時欽未詳州
書ヲ用ヒテ名ヲ記ストニナリテソレヲ花押ト名ツケタ
リ牽涉カ五采雲體トイフ是也此事ノ始ハ久シキ事ニヤ
梁ノ御府ニ收メラレシ魏晉ノ法書ヲ見ルニ皆コレ朱異
姚懷珍等ガ名ヲ其首ト尾ト紙縫トノ間ニシルセリ是ヲ
押縫トモ押尾トモイヒケリ後ノ人ノ花押ハ草書ヲ以テ

其名ヲ書スユヘニ押字ト云フ蓋古ノ押縫押尾等ノ躰ニ
ヨレルナルヘシト見ヘタリ宋ノ石林ノ葉氏ガ燕語ニハ
唐ノ代ノ人初ハイマタ押字ト云フアラス唯其名ヲ草
書ニシルシテ私ノ記トナセリソレヲ名ツケテ花書ト云
韋陟ガ五雲體是也今ノ人ハ字ヲ押シ或ハ名ヲモ押ス王
荆公ハ石ノ字ヲ押スニ始ニ一畫ヲ横ニシテ左ニ脚ヲ引
キ中ニ一ノ圈ヲナサレシト見タリ荆公ニ封セテ爾又同
代ノ張湜カ雲谷雜記ニモ唐ノ世ヨリ我國ノ初ニ及テ人
ニアタフル書蹟ニ名ヲ押シ字ヲ押スアリシ上表
ニモ又カクノ如シ今名ト字トヲ用ヒズシテ別ニ形模ヲ
ナスハ然ルヘカラスト見タリコレヲノ説ニヨラバ或ハ
名ノ字ヲ用ヒ或ハ字ノ字ヲ通シ用ヒシナルベシサレド
范石湖ガ詞ニ古人ハ字ヲ押ス是ヲ花押ト云印ハコレ名
ヲ用フ前輩ノ簡帖ニ前面ニ名ヲ書シ其後ニハ字ヲ押ス
ト云シヨシ周密ガ癸辛雜識ニ見タレバモトハ是字ノ字

ヲ用ヘキ事ニヤ宋ノ祖擇之ノ押字ハタバ一口ノ字用ヒ
ラレシヲ或人問シニ口無擇言ト答シテ江隣幾雜誌ニ見
エコレハ雲谷雜記ニ所謂名ト字トハ用ス別ニ形模ヲナ
セルナルヘシ

吾國ニテ押字ヲ用ヒ始シテ國史令式ニ見サレハ其始詳
ナラス同文通考ニモ見エス或曰夜鶴書札抄ニ摠シテ判
形平良時人皇五十五代宇多院御宇仁和元年將軍ノ宣旨
ヲ蒙リシ時判形ヲ始タリト貞丈云此説信ニ難シ五十五
代ハ文徳天皇也宇多天皇ハ五十九代也宇多院トハ宇多
天皇ノ事歟此時イマダ院号アラズ仁和元年ハ五十八代
光孝天皇ノ代也古ノ如クナル説取ルニ足ラズ按スルニ
東大寺所藏ノ古文書ノ模寫ニ五十六代清和天皇貞觀年
中ノ文書ニハ押字見エズ既ニ前ニ記ス六十代醍醐天皇
昌泰年中ノ文書六十一代朱雀天皇天慶年中ノ文書ニハ
押字アリ是ヲ以テ考レハ貞觀以後昌泰以前ノ間ニ押字

始リシナルヘシ貞觀元年ヨリ昌泰元年マデ四十年間也
東大寺古文書寫 文詞畧之

昌泰元年七月八日在史官位上家原朝臣良居

貞文云名ノ下ニ押字アリ良居ハ名ルベシ

從五位上守右少辨兼右大臣高藤原朝臣

貞文云辨官ハ名ヲ記サスシテ朝臣ヲ押字トス下皆同之是押字ノ始ナル時ヨリ例ナリ

同上

昌泰二年九月廿二日上行左史御船宿祢有乃

六教書卷ノルニ

遣唐副使從五位上左大辨兼行式部大輔行從文章博士紀朝臣

貞文云同右有一ハ且ナルベシ

同上

天慶六年八月廿二日從五位上左史兼丹波權尾張宿祢朝臣

貞文云是ハ尸ノ下ニ押字アリ名ヲ書ズ

從四位下行右中辨藤原朝臣

同上

天慶六年九月廿三日從五位上左史兼丹波權尾張宿祢朝臣

貞文云同上押字ヲ改タル歟

從五位上守右少辨菅原朝臣

名乗ヲ書ク真名
ト云判ノ中ヲ草名
ト云判ノ中ニハ草名
ト云判ノ中ニハ草名
ト云判ノ中ニハ草名

● 押字トハ名ヲ書ク事ナレ氏字ノ正躰ヲ省略シ草書ノ法
ヲ以テ字躰ヲ異様ニ作りタルモノ故書字ト云ズシテ押
字ト云也又花押トハ字ヲ草法ヲ以テ省略シテ形ヲ作り
其躰花文ヲナスガ故也ハナヤカニカザル意也按スルニ
押字ニ五躰アリ曰草名躰曰二合躰曰一字躰曰別用躰曰
明朝躰也五躰左ノ如シ

● 草名躰 吾國ニテ押字ヲ草名^{サウナ}ト云名ノ字ヲ大ニ省略シ
テ草ニ書故也吉部秘訓ニ報牒可加草名近代真名也又云
吉書署事中少辨次第云内案加真名^{サウナ}正文加草名又官職難
義ニ惣別判ヲハ草名ト申也名乗ノ二字ヲ崩シテ草ニシ
タル物也仍草名ト申ガ本也ト云ヘル是也又石林燕語ニ
所謂花書ノ類
ナルハシ

音

古押諧

大江匡房ノ押字也
匡房ノ二字也

所謂花書ノ類
ナルハシ

音

花押藪

日野大納言時光ノ押字也
時光ノ二字也

音

同右

世尊寺中將行房ノ押字也
行房ノ二字也

音

續花押藪

三條太政大臣實行公ノ押字也
實行ノ二字也

音

同右

花山院大納言忠輔卿ノ押字也
忠輔ノ二字也

音

同右

海住山參議長房卿ノ押字也
長房ノ二字也

沙珠

東福寺師鍊ノ押字也
沙珠ノ二字也

花押藪

義朝

左馬頭源義朝ノ押字也
義朝ノ二字也大ニ省畧
セリ

古押譜

幹仁

後小松院ノ御押字也御諱幹仁
幹仁ノ二字也

古押譜

●二合躰 是ハ草名ノ躰一轉シテ二字ヲ左右ニ並ヘテ點
畫ヲ交錯シテ一字ノ如ク作ル也然レハ二合ト云ハ押字

弘安禮節ニ二合トア
管人或ハ家僕等ニ與ル
セズシテ二合ト書テ與
云意也此事官職難儀ニ
押字ヲ畧シテ二合ト書

好

津守國長ノ押字也
好長ノ二字也

花押藪

家

三條太政大臣公房公ノ押字也
公房ノ二字也

續花押藪

沙鉢

東福寺師鍊ノ押字也
沙鉢ノ二字也

花押藪

了

左馬頭源義朝ノ押字也
義朝ノ二字也大ニ省畧
セリ

古押譜

鶴

後小松院ノ御押字也御諱幹仁
幹仁ノ二字也

古押譜

●二合躰 是ハ草名ノ躰一轉シテ二字ヲ左右ニ並ヘテ點
畫ヲ交錯シテ一字ノ如ク作ル也然レハ二合ト云ハ押字

ノ事也爰ニ一ツ紛テハシキ事アリ弘安礼節ニ二合トア
ルハ押字ヲスル事ニハアラズ被管人或ハ家僕等ニ與ル
書ニハ押字スベキ處ニ押字ヲバセズシテ二合ト書テ與
ル也是ハ押字ヲスル程ノ事ゾト云意也此事官職難儀ニ
見タリニ合トハ押字ノ事ナル故押字ヲ畧シテ二合ト書
テ與ル也

好

津守國長ノ押字也
丞長ノ二字也

花押藪

宍

三條太政大臣公房公ノ押字也
公房ノ二字也

續花押藪

煉

續花押藪

有栖川幸仁親王ノ押字也
幸仁ノ二字也

義

同右

實相院義延法親王ノ押字也
義延ノ二字也

二別ト云々系ノ上
ノ字フハ常ノ字ヲ
ニ出テ下ノ字ハカリテ
草ニヤツシテ作ル
タトハ通方ナラハ
通方ニ依ル

石

續花押藪

萬里小路孝房卿ノ押字也
房ノ字也

鷹

同右

鷹司閑白房輔公ノ押字也
房ノ字也

道

同右

聖護院道祐法親王ノ押字也
道ノ字也

● 別用躰 名ノ字ヲ用ズシテ別ニ形ヲ作テ用ル也雲谷雜
記ニ所謂名ト字トヲ用ズシテ別ニ形摸ヲナスト云ヒ又
江隣幾雜ニ所謂宋ノ祖擇之カ押字ニ一口ヲ用シ類也

四

木曾義仲
ノ押也

花押藪

三

三好政康
ノ押也
号釣
用齋
古押譜

建長寺梵仙
ノ押也
花押藪

ψ

熊谷直實

ノ押也
同上

一

鎌倉惟康
親王ノ押
也
花押藪

宮崎之存

ノ押也
花押藪

山

今出川公行公

ノ押也
同上

山

明朝躰

伊藤長胤告
秉燭譚曰

今時ノ人花押ノ上下ニ一文字スル
明ノ太祖ヨリ始ルヨシ先人伊藤仁齋常ニ物カタリアレ
氏何ニ出ルト云テヲカタリヲカズ近比羣談採餘ヲ見レ
バ第一卷ニソノ事アリ國朝押字之製上下多用一畫蓋取
地平天成之意ト云云コノ外ニモマ夕本書アルヘシト貞
丈花押藪同續編古押譜等ヲ見ルニ押字ノ上下ニ一畫ヲ
置タル者天正年中ヨリ以來ノ花押ニ見エタリ名ノ字ヲ
用ズシテ上下ニ一畫ヲ置テ其中間ニ種々ノ形ヲ作ル也
是古代ノ押字ノ躰ニ遠サカルト甚シ今世此躰盛ニ行ハル

五

後水尾院ノ御押也

花押藪

此外天正以來ノ花押上下ニ一畫ヲ置ク者枚
擧ニ遑アラズ今盛ニ行ル、躰ナル故多ク寫
出スニ及ハス畧之

右押字五骸ノ目古人イマタ云ハザル所貞丈新ニ是ヲ
分別スル者也

● 花押ノ上ニ名ヲ書ザル事古法也南流別志曰花押ハ名ヲ
草書ニ書タル也花押ノ上ニハ姓ヲ書事ナルヲ今ノ世誤
テ名ノリヲ書也庭訓ナト見ルベシ今世ハ奉行ノ輩面々
ニ私印ヲ用ユ官印ナキユヘ也古ハ官印一官府ニ一ツナラ
デナシ是ヲ月日ノ下ニ押テ面々ノ花押也官ノ文書ハミ
ナ物書役ノ書一ニテ名ノリ斗ヲ面々ニ草ニテ書ヲ花押
ト云也同文通考曰古ノ人ハ判ヲシルサル、時ニ又名ノ
字署セラル、事ハナカリキコレ判ニハ名ノ字ヲ用ヒラ
レシト云事ノ一ツノ證トヤスヘキ花押藪ヲ按スルニ源義
仲朝臣平義時朝臣ノミ
判ノ上ニ名ヲ署セラル 近キ代ニ至リテハ判ニ其名ヲ用
其餘ニハ見ル所ナシラル 近キ代ニ至リテハ判ニ其名ヲ用
フルトイフ事モナク又判ノ上名ヲ署スル事ニ成タリ世
ノ末サマニナレルニ随ヒテカ、ル事モ其故實ヲ知ル人
マレニ成シニヨレルナルヘシ貞丈按前ニ馬シ出ス所ノ

● 東大寺ノ古文書ノ中昌泰年中ノ太政官ノ牒ニハ大史花
押ノ上ニ名ヲ書タリ花押ノ骸モ名ノ字トハ見エズ其比
近キ世ニ異朝ノ風ヲ移シテ花押ヲ用ル_一ニハ成リケレ
氏花押ハ名ノ字ニテ作ルト云フ_一イマダ知レズ花押ノ
上ニハ名ヲ署スルニ及バズト云フ_一モイマダ知レサリシ
故ナルベシ後ニ其事詳ニ知レタリシニヤ天慶ノ太政官
ノ牒ニハ大史名ヲ署セズシテ姓尸ノ下ニ花押ヲシタリ
押字ヲ俗ニ判ト云事同文通考曰是ヲ判ト名ツケシ事モ
其義詳ナラズタバシ有司ノ判署スル所ナレバ斯名ツケ
シニヤアラン兼燭譚曰カキ判ヲ花押ト云又押字ト云日
本ニテ判ト云ハ誤也判ト云ハ奉行役人ナトノ下へ出ス裁
判カキ世スミ狀ナト、モ云判断ノ意ナリ文ノ一骸ニ判
語ト云アリソノ判ニ花押シタルヲ五花判ト云故事アリ
ソノヤウナル_一ヨリ轉シアヤマルニヤ貞丈曰押字ヲ俗
ニ判ト云事近世ノ事ニアラス昔ヨリ云シ也宇治大納言

隆國ノ今昔物語曰今ハ昔或人夏比ヨキ瓜ヲ得タリケレ
 ハ人ニ贈ラントテ十顆ハカリヲ厨子ニ入テ此瓜不可取
 ト云テ出ニケリ然所ニ阿字丸ト云七八歳ノ男子竊ニ厨
 子ヲ開キテ瓜一顆ヲ取テ食ケリ夕方ニ及テ親歸リテ厨
 子ヲ開キ見ルニ一顆失ニケリ是ハ誰取タルソト尋ルニ
 家内ノ者共我モ取ズクトアラソヒアヒタリ正シク此家
 ノ人ノワサ也外ノ人ノ來テ取ヘキニアラズトハシタナ
 クセメ問フ時或女晝見候シハ阿字丸コソ御厨子ヲ開キ
 テ瓜一ツ取出シテ食ツレト云父是ヲ聞テトモカクモ云
 ズ其町ニ住ケルオトナシキ人ヲアマタ喚集メケリ家内
 ノ者共コハ何故ニ喚タマフニヤト思フ程ニ郷ノ人トモ
 喚集テ父瓜ヲ取タル兒ヲ永ク勘當シテ此人々ノ判ヲ取
 也判スル者共イカナル事ゾト問ヘバ思フ所侍ルト云テ
 判ヲ取ケリ家内ノ者共是ハカリノ瓜一顆ニ子ヲ不教ス
 ルトヤアルヘキ物狂ハシキ事カナトイヘトモ聞入レズ

シテヤミニケリ其後年月ヲ經テ不教セラレタル兒成長
 シ元服シテ然ルヘキ所ニミヤ仕ヘシケルホドニ盜シテ
 ゲリ捕ラレテ問ルニシカクノ者ノ子也ト云ケレバ檢
 非違使別當ニ其由ヲ申ス別當廳ノ下部トモヲ具シテ此
 冠者ヲ先ニ立テ父カ家ニ行テ此由ヲ云テ追捕セントス
 父ガ云ク是ハ我子ニアラズ不教シテ數十年ニ成ヌト申
 ス廳ノ下部氏用ヒズシテ怒リ罵シリケレバ父ソコタチ
 此更ヲ虚言ト思ハ、其證ヲ見スヘシトテ在地判ヲ取タ
 ル文ヲ取出シテ下部トモニ見セカノ判シタル人共ヲ喚
 テ此旨ヲ云ヘバ判シタル人氏マサシク先年カ、ル事ア
 リキト云下部歸テ檢非違使ヲ以テ此由ヲ申セハ別當ケ
 ニモ父ハ知ルマジト云テ冠者ヲ獄ニ禁セラレケリ父ハ
 更ニ事ナクヤミニケリト此文ヲ見レハ昔ヨリ俗ニ判ト
 云來レリ昔ヨリ云來レルトナレ共判ト云ハ誣ナルベシ
 近世ニハ印ヲ印判ト云ヒ押字ヲ書判ト云弥謬ナリ

●近世花押ニ穴ノ數ト云フヲ云出シテ土性ノ人ノ判ハ一
穴火性ノ人ノ判ハ三穴ニ作ルナト、云フアリ又病身ノ
人判ヲ改メ易ヘテ無病ニ成リタリト云又立身セサル人
判ヲ改メ易ヘテ立身シタリト云類世ニ多シ甚愚ナル事
也判ハ前ニモ記ス如ク我名ノリヲ草書ニ省畧シテ書ク
事ナレハ性ニ合フ不合ト云フハナキ也穴ノ數ニ拘ル
テモナキ也判ニ因テ禍福ヲ招クテモ曾テナキ也今
世押字ノ故實廢レテ上下ニ一畫ヲ置テ其中間ニ據モナ
キ形ヲ作ルヨリシテ穴ノ數ヲカゾヘ性ニ合フ不合ト云
ヒ吉凶ヲ云フ事ニ成レル也判ノ墨色ヲ見テ吉凶ヲ占フ
ト云フ事ナトモ判ニ限リタルトニハアラズ一文字ニテ
モ一圓相ニテモ何ニテモ墨付タルヲ見テ占フナレハ判
ニ吉凶ハナキ也
●判ヲ木ニ刻ミテ用ル事元ハナキ也同文通考曰元ノ時
ニ及テ蒙古色目ノ人ノ官トナリシガ多クハ筆執ルヲ

得ザレハ象牙又ハ木ヲ以テ花押ヲ刻ミテ用タリ宰輔オ
ヨビ近侍ノ官ノ一品ニ至レル人別ニ勅旨ヲ得テ玉ヲ以
テ刻テ用ヒシ按スルニ後周ノ廣順二年平章事李穀臂ヲ
病テ其位ヲ辞シケルニ太祖詔シテ名ヲ刻メル印ヲ用ヒ
シメ給フト云事アリコレ押字ヲ刻メル印ヲ用フル事ノ
初ナルベシト輟耕錄ニ見ヘタリ又曰近キホドハ世ノ人
事グサシゲクナリエクマ、ニ自ラ判ヲ署スルニ堪ズシ
テ多クハ其形ヲ木ニ刻ミテ用フル事ニナリタリ此物モ
ト自ラ署スルヲ得テ其信ヲ示スベキ所ナルニ斯其本
ヲ失ヘル事クダレル世ノ俗誠スナキカ故ニヤアルベ
キト卓史曰印モ花押モ共ニ文書ノ信ヲ示シ證トスベキ
ガ爲ノ者也其中ニ印ハ彫刻スル物ナレハ贗物ヲ作ル
モアルベシ花押ハ各自ラ書ク物ニテ各手癖アリテ其書
跡他人似セル事ナラヌ所アリ假令書跡ハ似セ得ルトモ
紙ニ捺入ル所ノ墨色ハ似セルヲナルベカラズサレバ花

押ハ物ノ證トスルニ至テハ印ヨリモ勝レル者也サレバ
 押字ハ其跡ノ筆勢墨色等ニ自ラ心覺ヲシテ書ベキ事也
 今世ノ如ク上下ニ一畫ヲ置タル判ヲ濃キ墨ヲ以テ光ル
 ホドニ塗リツクロヒタル者ハ贋物出來マジキ者ニモア
 ラズ或人花押スル度ゴトニ花押ノ中ニ細キ針ニテ穴ヲ
 突アケテ置シガ後ニ贋書ニ我花押アリテ罪科免レ難カ
 リシ時カノ針穴ノ無リシヲ以テ贋書ナル由ヲ云ヒ開キ
 罪ヲ免レシト云フアリ針穴ヲコソアケマジケレ花押
 ノ點畫ノ中ニ他人ノ心ツカザル所ニ二三箇所モ驗ヲシ
 テ書覺オクベキ事ナリ上古ハカ、ル、ル、ナケレドモ末
 ノ世ニ至リ姦曲多キ時代ニハ印モ花押モ贋物アルナレ
 ハカ子テ人知レズ用意スベキ事也

安永三年甲午九月廿三日

江府扈從隊士伊勢平藏貞丈書



○ミヤコ文雅記ミヤコ名簿ト云ふ右の二字の事ハ簿ハナリ後ニ自ラ心覺ヲシテ書ベキ事也
 亦尙ラ其の千任ト云ふものやうの上ニ三て字を置てては軍
 左の字ハ軍ト云ふは又於右更任字をうちばはるるを簿と云ふ事
 云ふは下ニ置てては軍ト云ふは又於右更任字をうちばはるるを簿と云ふ事
 人の心下ニ置てては軍ト云ふは又於右更任字をうちばはるるを簿と云ふ事

方武

吉村方武

押ハ物ノ證トスルニ至テハ印ヨリモ勝レル者也サレバ
押字ハ其跡ノ筆勢墨色等ニ自ラ心覺ヲシテ書ベキ事也
今世ノ如ク上下ニ一畫ヲ置タル判ヲ濃キ墨ヲ以テ光ル
ホドニ塗リツクロヒタル者ハ贋物出來マジキ者ニモア
ラズ或人花押スル度ゴトニ花押ノ中ニ細キ針ニテ穴ヲ
突アケテ置シガ後ニ贋書ニ我花押アリテ罪科免レ難カ
リシ時カノ針穴ノ無リシヲ以テ贋書ナル由ヲ云ヒ開キ
罪ヲ免レシト云フアリ針穴ヲコソアケマジケレ花押
ノ點畫ノ中ニ他人ノ心ツカザル所ニ二三箇所モ驗ヲシ
テ書覺オクベキ事ナリ上古ハカ、ルヲモナケレドモ末
ノ世ニ至リ姦曲多キ時代ニハ印モ花押モ贋物アルナレ
ハカ子テ人知レズ用意スベキ事也

安永三年甲午九月廿三日

江府扈從隊士伊勢平藏貞丈書

天明二年壬寅九月十五日

徳力金十郎良興寫



吉村方武
菊

昭和十六年夏寫之

